

2023 年 活動報告(1 月～12 月)

【法人の管理】

- 会計監査 2 月 21 日
- 決算理事会 3 月 27 日

【提 言】

G7関連

- NGO労働協働フォーラム G7保健課題勉強会 (1 月 25 日)
- GIIとグローバルヘルスタスクフォースとの対話 (2 月 2 日)

「Resilient UHC に含まれる結核を含む三大感染症等の今ある緊急課題への対応」について以下のように提言した

2023 年 G20 の保健重要課題の 1 つが「結核」であることを考慮し、また、「UHC の新たなモメンタムと概念は、2023 年に開催される UHC、PPR 及び結核に関する国連総会ハイレベル会合の基礎として機能すべき」と明言する岸田文雄内閣総理大臣のランセット誌寄稿文を踏まえ、2023 年に日本が議長国を務める G7 の保健重点課題においては、「結核」をキーワードの 1 つとしてハイライトし、同時に G7 が支援する弾力性のある(resilient)UHC 達成に向けた新しいロードマップ等の中で、結核対策が効果的に機能するようにする。

→ ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会(2 月 22 日開催)においても、同様の提言をし、G7保健分野の政治宣言において、AMRの文脈で結核を記載することが、武見会長により外務省へ指示された。

● GHIT ファンドの新 5 ヶ年戦略(2023-27 年)の増資

✓ GHIFファンド(CEO 國井先生)との打ち合わせ(2 月 9 日)

下記の提言を、「結核議連の申し入れ」に追記し、結核議連総会、後の手交にて提言をする。

＜提言内容＞

「広島 G7 サミットにおいて政府から 2 億米ドルの誓約発表を行う。GHIT の意思決定や組織運営、新戦略の実施、特に研究開発の加速化と新薬の迅速なアクセスに対して、日本の官産学民の関係者がより積極的に関わることができるよう、政府一体となり一層の支援を行うこと」

→ ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会(2 月 22 日開催)において、國井先生より増資要望を行い、財務省とも協議ししっかり対応することが約束された。

● ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会

2 月 22 日 11:30～12:30 参議院会館B109 号室

出席者

議員 本人 武見敬三(会長)、秋野公造(事務局長)

代理	古川俊治、逢坂誠二、亀岡偉民、棚橋泰文、藤井比早之、御法川信英、柳本 顕、吉田統彦
厚生労働省	江浪武志 結核感染症課 課長 杉原 淳 結核感染症課 エイズ対策推進室長 鈴木貴士 大臣官房国際課 国際保健管理官 青木史子 大臣官房厚生科学課 課長補佐
外務省	江副 聡 国際協力局 地球規模課題審議官組織 国際保健戦略官
JICA	小野 智子 人間開発部保健第一グループ
結核予防会	尾身 茂 理事長、石川信克 顧問
STBJ	森 亨 代表理事、JATA/RIT 名誉所長、宮本彩子 事務局次長
GHIT ファンド	國井 修 専務理事・CEO、関 一恵 渉外責任者、堀内 聡 渉外担当

➤ 挨拶・役員人事について

→武見会長より、ストップ結核ジャパンアクションプランが 2021 年に改定され、秋野議員を新事務局長に迎えて、引き続き議連として結核をサポートしていくことが述べられた。

➤ 「結核関連予算」について(厚生労働省、外務省よりヒアリング)

→武見会長より、R5年度結核対策関連予算案について、結核患者入院医療費 28 億 7800 万(前年度当初予算 29 億 2600 万)、結核患者通院医療費 3 億 3300 万(3 億 4900 万)と減額している理由について質問があり、結核感染症課より入院医療費、通院医療費ともに実績であり、患者が減った分が減額されていると回答があった。

→武見会長より「国際機関等の結核関連事業の支援」の予算金額について確認があり、GFIについては、岸田総理より 10.8 億ドルのプレッジ(2023-2025)があったところ、今年度分として 112 億円、GDFについては、R5 当初予算として 1.1 億円、ただし、GHITについては、R5 年から R9 年度 3 期のプレッジはまだなされていない。

予算は厚労省:外務省で、1:1 で連携。(厚労省)R4年度補正 21 億 6000 万、(外務省)R4補正 18 億、R5年度当初 3 億 8000 万。外務省合計 21 億 8000 万。これは単年度最大規模。官民で合計 400 億円の増資を目標としており今後第 3 期プレッジに向けて努力する。(GHITI からの要望では政府から 2 億米ドル)

➤ 結核と重点感染症について(厚生労働省よりヒアリング)

→秋野事務局長より、結核が重要感染症に入っていないのではないかと問いがあり、厚労省より、多剤耐結核菌・超多剤耐性結核菌は、「重点感染症の暫定リスト」のうちグループ C(薬剤耐性AMR)に該当し、AMR研究開発優先課題リストに該当することが説明された。

- 申し入れ「ポスト・コロナ時代の国内外の結核対策について」(*)
- 森 代表理事により「申し入れ」背景として日本と結核の結核問題について説明、GHIT ファンド国井により第3期(2023年～2027年)の必要資金について説明を頂いた。
- 尾身結核予防会理事長より、特に人材の養成(開発、危機管理)、人材への投資の重要性、そして(日本の技術普及)戦略的なマーケティング必要性についてコメント頂いた。
- STBJ より、G20 保健重点や UNHLMTB 開催などに鑑み、TB をキーワードとしてハイライトしてほしい旨、発言をした。
- GHITブレッジについては、財務省とも協議ししっかり対応することが確認された。
- G7保健分野の政治宣言については、AMRの文脈で結核を記載することが、武見会長により外務省へ指示された。

● 手 交 加藤勝信 厚生労働大臣

申し入れ「ポスト・コロナ時代の国内外の結核対策について」(*)

日 時: 4月14日(金) 17:40～17:55

場 所: 衆議院第2議員会館の会議室(1118)

要 望

1. 提言書 国内結核 1 番 秋野事務局長

危機管理の一環として、国の感染症対策を再構築する際、国の感染症対策が効果的に機能するために、結核対策を担ってきた結核予防会との連携がしっかりとされるようにして頂きたい。

2. 提言書 国内結核 5 番 予防会尾身理事長

低蔓延化状況を踏まえて、結核対策・医療に必要な人材・財源の確保をしていただきたい。人材の観点では、海外の危機管理の重要な対策でもある結核対策について、実施案件を増やし、人材の養成・確保することが重要だ。

3. 提言書 世界結核 1-iv (国連総会結核ハイレベル会合) 森代表理事

国連総会結核ハイレベル会合において、力強い宣言の策定に日本政府にコミットして頂きたい。2018年同様に日加藤大臣には前回のハイレベル会合に出席いただいたが、今回も同様に出席をして頂きたい。

4. 提言書 世界結核 4 (GHITファンド増資) 国井 CEO

世界的に結核は死者数ではコロナに次ぐもので、大きな問題であるにもかかわらず、ワクチンなどの研究開発が進んでいない。国際連携のもと、国際的な臨床治験や実施が進むように、GHITファンド増資に対して、広島 G7 サミットにおいて政府からの2億米ドルの誓約を求める。

5. 提言書 世界結核 5 (ウクライナの結核) 古屋範子副会長

ウクライナ及びウクライナからの避難民を受け入れている近隣諸国への結核対策について、治療と診断へのアクセスが継続されるように援助を行う。

6. 提言書 世界結核 4 (GHIT ファンド) 武見先生

G7 サミットにおいて、総理が GHIT ファンドの増資誓約をすることを強く求めた。

加藤大臣コメント

しっかりやる。GHIT ファンドについては、皆が賛成するならば私は反対するところではない。
(要検討)

参加議員

ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟 会長 武見敬三
ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟 副会長 古屋範子
ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟 副会長 高階恵美子
ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟 事務局長 秋野公造

陪席

(公財)結核予防会理事長 尾身 茂
(公社)GHIT ファンド 専務理事・CEO 國井 修
(公社)GHIT ファンド 渉外責任者 関 一恵
(公社)GHIT ファンド 渉外担当 堀内 聡
(特活)ストップ結核パートナーシップ日本代表理事 / 結核予防会結核研究所名誉所長 森 亨
(特活)ストップ結核パートナーシップ日本 事務局次長 宮本彩子

→ 結 果

G7 広島サミット (5 月)

※ 岸田首相から GHIT Fund 第三期に対して 2 億ドルのプレッジ表明

※ G7 保健大臣会合 (5/13, 14) で「[保健大臣会合宣言](#)」

イノベーション促進の文脈で AMR の項目 (43 番) でハイライトをして頂くことができた。

UHC の文脈では、結核は他の感染症等と同様の扱い。(26 番)

コロナにより対応が遅れたことを認識し、平時の保健システムを強化する取り組みの一環として、2025 年までにパンデミック前のレベルよりも良い状態を達成するために、プライマリヘルスケア (PHC) への投資を支援により、各国が UHC を達成できるように国際的なパートナーと連携して支援する。UHC の達成が、SDGs3 (結核は SDGs3.3 に該当) への進捗を加速するという考え。

● Connect2023: Asia and the Pacific TB Summit

主催：世界結核議連 (GTBC)

参加：アジア太平洋地域の国会議員、インド厚労省 (G20 インドシエルパ)、WHO、GF、STBP、

IAVI など

目的： 結核終息、UNHLM-TB に向けて国会議員の役割強化、アカウンタビリティの確認
(UNHLM-TB、G20、APPPGH などの世界的・地域的フォーラムで結核が上位に位置する
よう、国会議員の政治的資本を活用するための支援を強化する)
将来に起こりうる新たなパンデミックが、アジア太平洋地域での結核に与える影響の軽
減。

日程： 2023 年 3 月 21 日～23 日

場所： インド + バーチャル

※日本は、武見敬三ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長に以下のセッションにビデオメッセージをお寄せいただいた（録画 3/20）

Connect: Discussions to ensure stronger political will to End TB

3 月 22 日 14:30～15:30（日本時間:18:00～19:00）

メッセージ内容： 日本の結核低蔓延化に果たした政治的なリーダーシップ、日本のグローバルヘルスへの貢献など。

※宣言文書へのインプット(STBJ) 結核と AMR 関係、結核と PPR と UHC との相互補完性

● 令和 6 年度結核対策関連予算要望

外務省 提出/面談 7 月 25 日

外務省 国際保健戦略官 江副聡

主査 田中沙恵

JATA/STBJ 森 亨 /STBJ 代表理事/結核研究所名誉所長

加藤誠也 結核研究所所長/STBJ 理事

小野崎郁史 結核予防会国際部付部長/STBJ 理事

宮本彩子 STBJ 事務局次長(陪席)

厚労省 結核感染症課 課長補佐 松浦祐史 提出 7 月 20 日(メール)

メールで質問などのやり取り(加藤先生回答)

手交 8 月 29 日

※7/20 議連共有(武見敬三会長、秋野公造事務局長、高階恵美子副会長、古屋範子副会長)

上記の予算要望に加えて、「第 2 回国連総会結核ハイレベル」の政治宣言に関して、以下のよう
に提言した。

「現時点の政治宣言ドラフトでは、PPR,UHC 対応の中での結核対策の重要性について記述が薄
いことを特に心配している。日本政府として、ぜひ PPR、UHC 対応の中で結核対策が重要なピ
ースとなるように(KEY ASKS 5 番)、ご配慮を頂きたい」

【啓 発】

世界結核デー

- Twitter 動画投稿
- STBP キャンペーン参加



● ストップ結核パートナーシップ関西 第10回ワークショップ

2023 年 3 月 25 日(土) 14:00～16:00/ Zoom を使った Web 配信セミナー

「低蔓延国であり続けるために市民とともに学ぶ」

第一部 市民と創る結核対策(社会との協働)に向けて

第二部 大阪の結核の保健医療体制、医科学研究体制と今後について展望する

関西大学社会安全学部 学生さんの参加など、

● 記者会見

2022 年結核登録者情報調査年報集計結果の解説 ～ 9 月 24 日～30 日は結核予防週間 ～

日 程: 8月29日(火) 17:00～ 18:00

場 所: 厚生労働省記者会

① 2022 年結核登録者情報調査年報集計のポイント

加藤誠也 (公財)結核予防会結核研究所所長,ストップ結核パートナーシップ日本理事)

② 世界の結核の状況 -国連総会結核ハイレベル会合-

森 亨 ストップ結核パートナーシップ日本代表理事/(公財)結核予防会結核研究所名誉所長、)

③ 結核対策の重要性

尾身 茂 (公財)結核予防会理事長

④ コメント

荒木 裕人 (厚生労働省健康局 結核感染症課長)

● **耐性結核新薬開発基金（MDR-TB 基金）**

ネパールにおける結核菌検査の顕微鏡塗抹検査および TB-LAMP 法の比較研究

申請団体： Japan-Nepal Health & Tuberculosis Research Association (JANTRA)

概 要：

本研究の必要費用合計（見積もり）は ¥7,297,696 のところ、本基金には、研究に必要な機材（TB-LAMP）とメンテナンスツールキット助成（¥991,007）を申請するものである。本基金の他に、栄研化学株式会社と（公財）結核予防会が支援をする。（研究費用合計 ¥7,297,696）

ネパール政府に対して、JANTRA と結核予防会（JATA）が TB-LAMP を導入する提案を行ったことに対して、政府から TB-LAMP 導入の利用方法とその利点について明らかにするよう求められている。この研究では、TB-LAMP と顕微鏡塗抹検査の感度を、現地で利用が想定される対象者（A）症状を有し自ら受診する外来患者、（B）症状を有するものに対して喀痰検査を行う積極的患者発見、（C）症状のない者に対して X 線検査を行う の三群を対象に比較し TB-LAMP の効果的効率的利用方法を明らかにする。

それにより対象の三群すべてにおいて TB-LAMP が顕微鏡検査より感度が高いことが示される。特に（B）では、感度の差が 50% 以上大きいことが実証され、また喀痰検査が多い検査室では顕微鏡検査の代わりに TB-LAMP を導入した場合、作業の負担が増えずに多くの患者が発見されることが示される。

業務実施予定期間： 2023 年 8 月 1 日 ～ 2024 年 7 月 31 日

申請金額： ¥991,007

※詳細は引き継ぎ書 ⑧参照